



団長 斎藤 正志

海外(ハワイ)医療視察研修記

全国公私病連盟は、コロナ禍の影響で令和2年より中断していた海外医療視察研修事業を再開し、昨年11月に米国(ハワイ州)に視察研修団を派遣しました。一行はクィーンズメディカルセンターなどを視察しましたので、以下にその視察研修記を掲載します。

その夜は、メンバーの紹介と親睦を兼ねウェルカムディナー。添乗員以外全員が看護師の有資格者であり、共通・共感する話題も多く、終始和やかな雰囲気で楽しい一時となつた。

1. ハワイ(米国)の医療は、医師と患者の間に多數存在する。医師は患者と保険会社両者へディスクロージャーし、その内容によって診療行為が決定されること。

2. 合理性を追求した結果、分業が確立。結果、手間とコストが増大し、医療費高騰へ反映していること。

3. 看護師は異動がない、ストライキ等一定の権利を有し、ユニオン体制が確立。年間の有給休暇が8週間あり、全て消化。脳外科医師のボケツトマニーで看護師へのクリスマスプレゼントが今年はマッサージチェアであったこと。

4. 救急搬送車が1日当たり約90名、1症例当たり10分以内に初診完了。救急センターには2つの入口があり、1つは一般、もう1つは犯罪者や精神疾患等(全体の1割程度)の専用である。

5. 我が国の医師ほど米国の医師のヒエラルキーは優位ではないことなど医療体制、勤務体制、

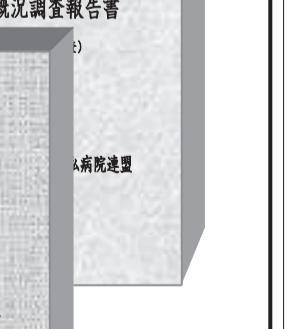


昼食は、ハワイ最大のアラモアナショッピングセンターで各自がフリーフロー式とした。

その後、近隣とのことで講義会場へ徒歩で移動。暑さの中の徒歩は、思つたより距離があり、街並みを見ながらでも若干きついと感じた。道に迷う場面もあり、講師のYuka Hazam氏(現地日本人看護師)を待たせてしまった。

14時からの講義は、初の試みであるからか丁寧な自己紹介で少々時間を要した。限られた時間の方は駆け足の説明となり少し残念だった。

要點としては、他民族の方は駆け足の説明となり少し残念だった。



全国公私病連盟は、コロナ禍の影響で令和2年より中断していた海外医療視察研修事業を再開し、昨年11月に米国(ハワイ州)に視察研修団を派遣しました。一行はクィーンズメディカルセンターなどを視察しましたので、以下にその視察研修記を掲載します。

2025年11月23日(日) 19:30、羽田空港出発ロビーのANAカウンター前に全国公私病連盟3名の職員、TCIジャパン添乗員、そして規査団メンバー6名が集合した。関係各位のご尽力により、新型コロナウイルスの蔓延(コロナ禍)後初の全国公私病連盟企画の海外(ハワイ)医療視察研修が再開したのである。

メンバーはJ.A.福島厚生連から白河厚生総合病院・鈴木看護部長、塙厚生病院・吉田看護部長、白河厚生総合病院・斎藤技士長(小生)の4名。社会福祉法人恩賜財團済生会大阪府済生会中

22時8分、祖国を後に

13時54分、滞在ホテル

乗員の富田氏、だけだった。

内での撮影は一切禁止であつた。

たゞくことになつた。

同じ医学という源泉から派生した医療は、それ

の国の風土や土地柄といった環境によって異

なる形式で成立してい

た。それらを現地で、そ

のままに印象

されたが、小生が特に印象

的に感じたことを紹介す

る。

医療従事者は、日本人

医師2名が医療体制と病

棟案内を、男性看護師1

名が救急体制と看護師の勤務概要について説明し

てくれた。

いずれの場面でもコロ

ナ禍の爪痕は所々感じ取

れたが、小生が特に印象

的に感じたことを紹介す

る。

医療は、医師と患者の間

に保険会社が介在するシ

ステムで保険会社は公私

多數存在する。医師は患

者と保険会社両者へディ

スで講義会場へ徒歩で移

動。暑さの中の徒歩は、

思つたより距離があり、

街並みを見ながらでも若

干きついと感じた。道に

迷う場面もあり、講師の

Yuka Hazam氏(現地

日本人看護師)を待たせ

てしまつた。

14時からの講義は、初

の試みであるからか丁寧

な自己紹介で少々時間を

要した。限られた時間の

試みであるからか丁寧

な自己紹介で少々時間を

要した。限られた時間の

試みであるからか

